

印旛のはにわ

－出現から消滅まで－

主任調査研究員 根本 岳 史

1. 埴輪とは何か

埴輪は、古墳に並べたてられた素焼きの焼物の総称であり、古墳時代をほぼ通じて（3世紀後半～6世紀後半）使用された。『日本書紀』にも殉死の代用品としての記載が確認されているが、その起源は弥生時代末、吉備地方の墳丘墓にみられる特殊壺・特殊器台が発展したものと考えられている。

2. 埴輪の種類と役割

埴輪には大きくわけて筒形や朝顔形などの円筒埴輪と、人物や動物、器財などを象った形象埴輪にわけられる。当初は円筒埴輪のみが飾られていたが、4世紀中ごろから家や武具、威信財を象った器財埴輪が立てられるようになった。鶏・水鳥を除く動物埴輪や人物埴輪の出現はさらに遅く、5世紀半ばごろとされており、関東地域での導入は6世紀前半の群馬県保渡田八幡塚古墳に代表されると考えられている。

埴輪の役割として、円筒埴輪の装飾・土留めのほか、人物や動物、器財等の埴輪群像については継承儀礼説や殯説、供物説や近習説などが挙げられているが、いずれも定説には至っていない。

3. 埴輪の出現【前期末葉～中期初頭】

印旛地域における埴輪の導入は、印西市鶴塚古墳で確認することができる。鶴塚古墳は直径44m、高さ3mを測る大型の円墳であり、墳頂部に木棺直葬の主体部が確認されている。出土した埴輪は、彩色のある器台形埴輪と極端に長胴化した壺形埴輪であり、両者とも変容の進んだ最新段階のものであるとされる。壺形埴輪は東海地域からの影響と考えられるが、このような埴輪の組合せは上総を経由した海路ではなく、常陸地域や上毛野地域との関連が指摘されている。しかしその後、印旛地域では墳丘上

に埴輪を配置する古墳は継続せず、空白期を迎えることとなった。

4. 埴輪祭祀のはじまり【中期末葉～後期初頭】

埴輪の樹立されない時期を経て、再度埴輪祭祀が行われるようになるのは中期末葉以降である。その代表例として、成田市上福田4号墳や印西市立田台遺跡SM-02の埴輪が挙げられる。

上福田4号墳は印旛沼東岸に位置し、全長48mの二重周溝を有する前方後円墳である。調査は周溝部分のみであったが、人物埴輪を含む多数の埴輪が出土した。埴輪は主に内周と外周の間の周堤上に立てられていたと考えられ、特に形象埴輪は後円部南側の周堤上に設けられた造出部から集中して出土している。形象埴輪は入れ墨を施した鯨面や力士などの人物埴輪のほか、大刀や鞍などの器財埴輪も出土している点が特徴である。

5. 多様な形象埴輪【後期前半】

後期前半に入ると、印旛沼東岸地域を中心に埴輪を有する古墳が増加する。成田市南羽鳥遺跡群では、前方後円墳である高野1号墳および円墳の正福寺1号墳で多様な形象埴輪を含む多量の埴輪が出土している。正福寺1号墳では人物や鶏・水鳥・馬などの定型的な埴輪に加え、ムササビや魚といった特殊な動物埴輪が出土している。

6. 「下総型埴輪」の成立と埴輪祭祀の終焉【後期後半】

後期後半になると、「下総型埴輪」と呼ばれる当地域を分布の中心とする特徴的な埴輪が製作されるようになる。代表的な古墳として、印西市大木台2号墳が挙げられる。直径17m、高さ2mほどの小型の円墳だが、墳頂部と墳裾部に埴輪列が巡っていたことが確認されている。出土した埴輪は当地域を

主体とする「下総型埴輪」と呼ばれるものであった。

7. 円筒埴輪の変遷

印旛地域に本格的に埴輪が立てられ始めた中期後半から後期初頭では、円筒埴輪は2条3段の構成で、胴部が太いものが多い。朝顔形埴輪は肩部の張りが強く、器高の低い点が特徴となる。佐倉市角来野谷1号墳の埴輪は、胎土の分析から埼玉県鴻巣市の生田塚埴輪窯跡でつくられたものであることが判明している。そのような中、成田市上福田4号墳例では3条4段が採用されており、その後の印旛地域の標準的な埴輪として継続するものである。

後期前半に入ると、大型の朝顔形埴輪とやや細形化した円筒埴輪が出土する。円筒埴輪は4条5段のものと3条4段のものが混在するが、前者は前方後円墳、後者は円墳から見つかっており、墳丘形状と埴輪の規格に関係があった可能性がある。

竜角寺101号墳出土の埴輪は茨城県取手市の市之台3号墳と同一工人集団による製作の可能性が指摘されている。

後期後半には、当地域を含む下総地域全体に「下総型埴輪」が分布するようになる。円筒埴輪はさらに細くなり、朝顔形埴輪の口縁部が直線的に立ち上がる。この段階をピークとして、印旛地域の埴輪祭祀は急速にその役割を終え、終焉を迎える。この現象は印旛だけではなく、関東全域で一斉に起きたものであり、大きな画期となった。

8. 埴輪を立てる古墳、立てない古墳

印旛地域では、上述のとおり古墳時代後期より多くの埴輪が確認されるようになる。これは当地域に群集墳と呼ばれる小規模かつ多数の古墳を有する古墳群が展開する時期であり、両者には古墳構造の転換に伴う関係性が少なからず存在したと考えることができる。しかし、時期や地域に応じてその出土は一樣ではないことが確認されている。

埴輪の出土は6世紀前半段階では印旛沼東岸地域、特に公津原古墳群周辺に集中するが、後半段階では龍角寺古墳群を中心とした印旛沼北岸地域に中心が移動する。この状況は墳丘規模や副葬品の内容とも連動した現象であり、印旛国造の中心勢力の転

換と重ねて議論されることも多い。

一方で、印旛沼南岸の物井古墳群や岩富古墳群では埴輪自体がほとんど出土しておらず、その樹立に際し一定の規制がかけられていた、あるいは造墓集団に思想的な相違があった可能性が推測される。このことは、印旛が一つに統合された地域ではなく、複数の系譜をもつ首長層がそれぞれの古墳群を造営していた地域であったことを示していると考えられる。

9. 印旛地域の卓越と埴輪製作集団

下総型埴輪の製作にみられる印旛地域の卓越は非常に短期間であったが、その勢力基盤は次代における岩屋古墳の築造や龍角寺の造営を可能とした。飛鳥時代とも呼ばれる古墳時代終末期は、畿内で律令制による中央集権国家への大規模な転換が行われた時代であり、古墳の築造や初期寺院の建立には関東地域全体において強い規制が働いていた状況も確認されている。

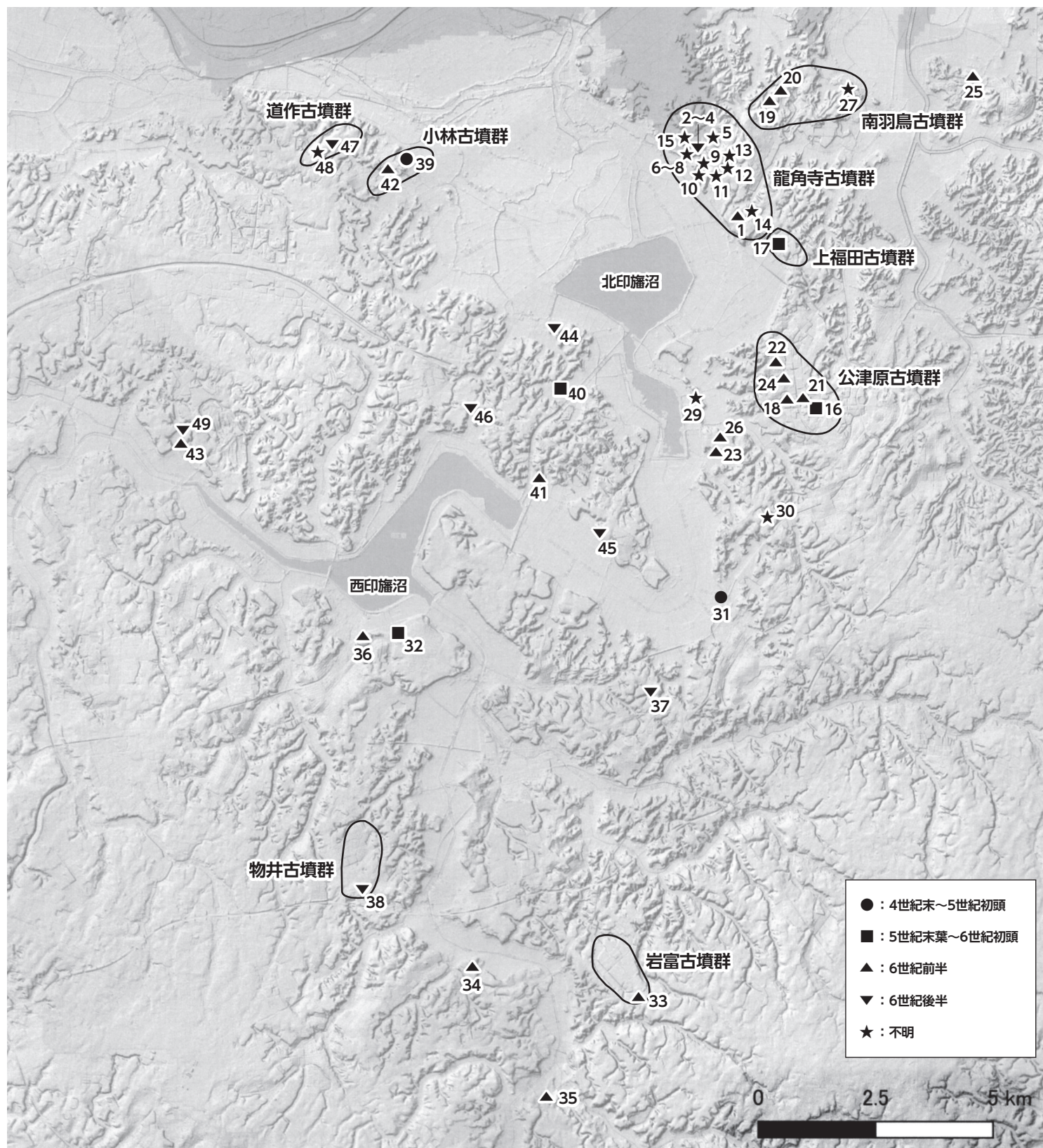
下総型埴輪の成立と、埴輪を製作した集団の出現は、そのような時代の大きな変化への萌芽であったと考えることもできるだろう。

10. まとめ —印旛のはにわ—

印旛地域の埴輪は長期間にわたり周辺地域との関連の中で導入と再編を繰り返してきた。地理的に見れば、霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含んだいわゆる「香取海」文化圏の南限として、常陸地域との強い結びつきを看取することができる。ただし、武蔵地域や太平洋沿岸地域等、その他の地域との交流も行われていた。

その様な状況において後期後半における下総型埴輪の成立は、当地域における自律的な埴輪供給体制の確立であり、重要な画期と捉えることができる。このことは、その後の律令期に向かって関東地域でも屈指の勢力となっていく集団の存在が背景にあったと考えることができる。

埴輪は墳丘に建てられた素焼きの焼物であるが、その背後には当時の人々の死生観・葬送儀礼だけではなく、政治的・社会的な情報も有している、大変貴重な資料であるといえるだろう。

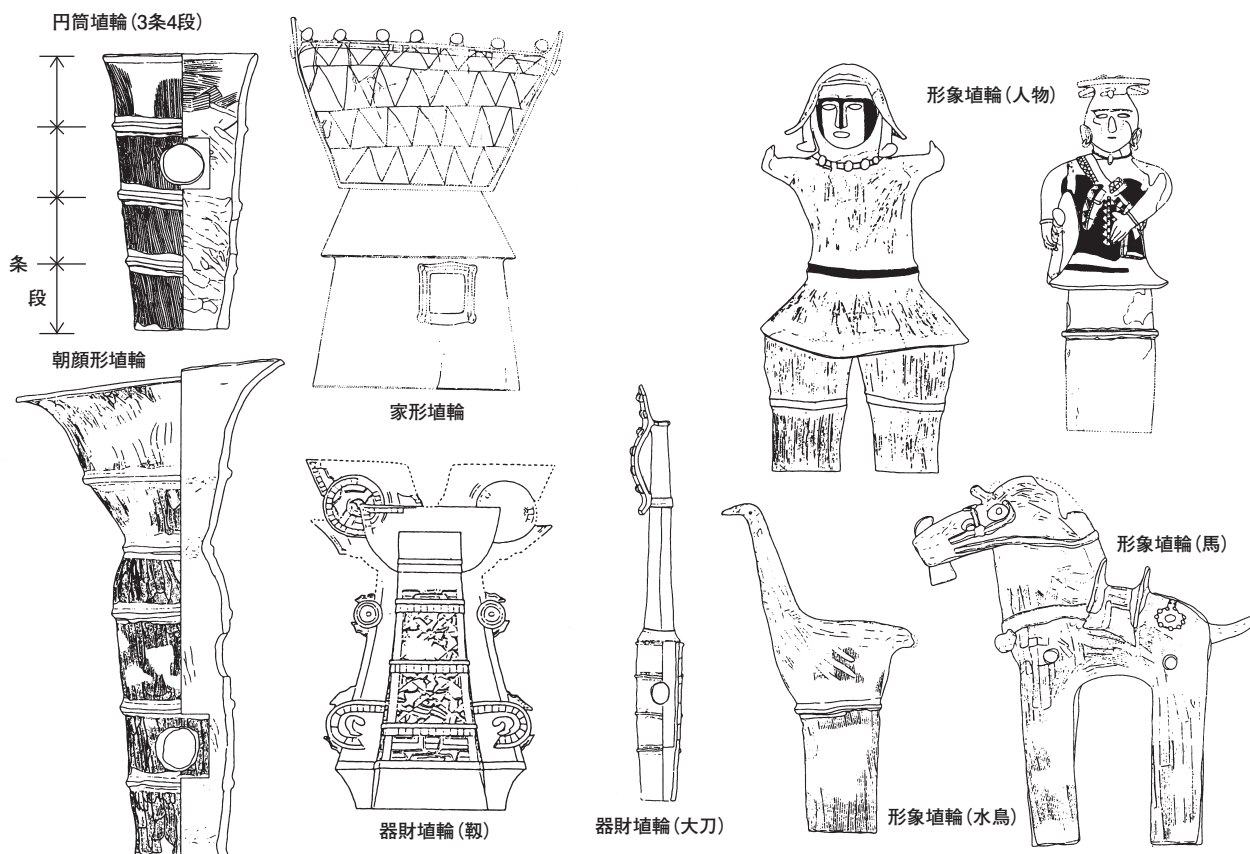


第1図 印旛地域における埴輪出土古墳位置図

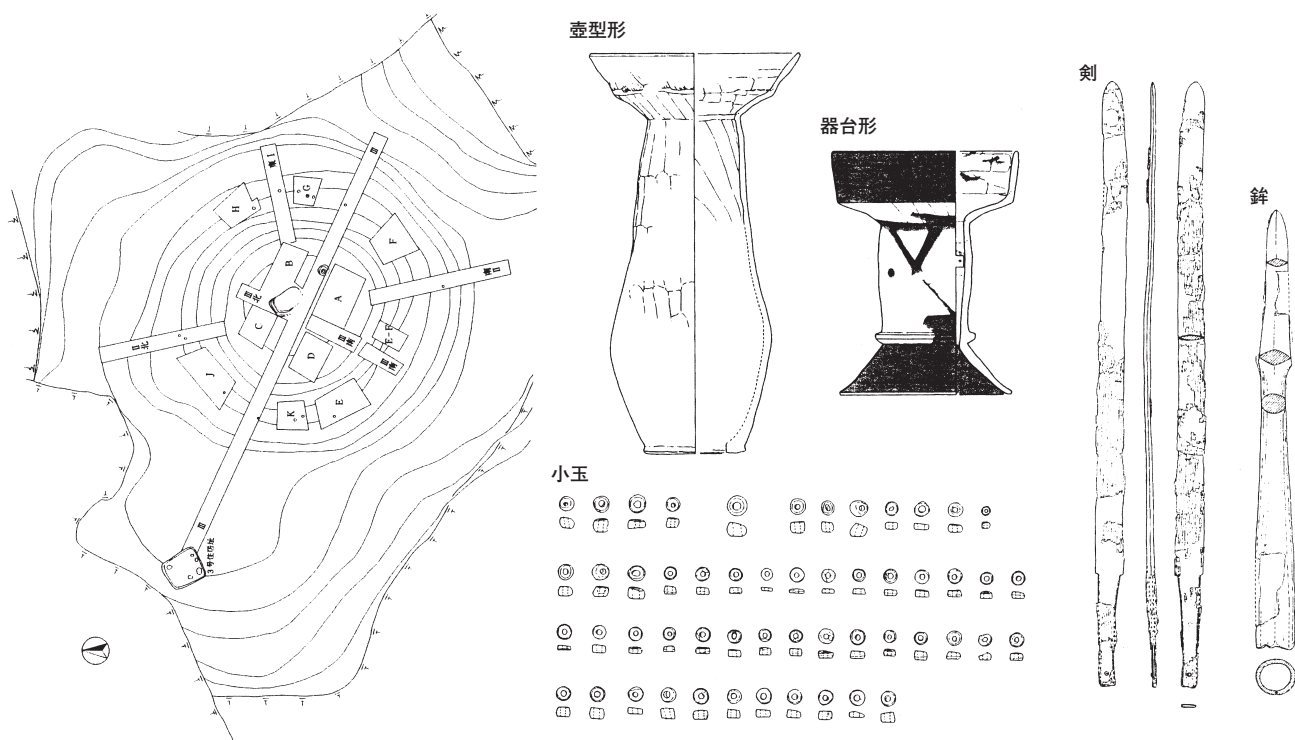
1. 竜角寺 101 号墳 2. 竜角寺 112 号墳 3. 竜角寺 113 号墳 4. 竜角寺 8 号墳 5. 竜角寺 4 号墳 6. 竜角寺 16 号墳 7. 竜角寺 17 号墳 8. 竜角寺 19 号墳 9. 竜角寺 42 号墳 10. 竜角寺 44 号墳 11. 竜角寺 57 号墳 12. 竜角寺 68 号墳 13. 竜角寺 70 号墳 14. 竜角寺 103 号墳 15. 竜角寺 9 号墳 16. 瓢塚 32 号墳 17. 上福田 4 号墳 18. 公津原埴輪窯跡 19. 南羽鳥高野遺跡 1 号墳 20. 南羽鳥正福寺遺跡 1 号墳 21. 船塚古墳 (天王・船塚 1 号墳) 22. 天王塚古墳 (天王・船塚 31 号墳) 23. 台方 4 号墳 24. 石塚古墳 (天王・船塚 16 号墳) 25. 荒海 15 号墳 26. 台方八尺坊遺跡内古墳 27. 南羽鳥中岫第 2 遺跡 1 号墳 28. 天王・船塚 22 号墳 29. 下方五郎台 I 遺跡 (五郎台 3 号墳か) 30. 宗吾・飯仲 5 号墳 31. 大鷲神社古墳 32. 角来野谷 1 号墳 33. 岩富木村留 8 号墳 34. 馬渡姫宮 1 号墳 35. 飯塚 16 号墳 36. 白井田小笹台遺跡 3 号墳 37. 将門 2 号墳 38. 清水遺跡 S08 号墳 (物井 14 号墳) 39. 鶴塚古墳 40. 立田台第 2 遺跡 SM-02 41. 山田谷々津古墳 42. 小林 1 号墳 43. 西ノ原 2 号墳 44. 古高山王古墳 45. 平賀古井戸原 2 号墳 46. 大木台 2 号墳 47. 道作 1 号墳 48. 道作 3 号墳 49. 西ノ原 1 号墳

時期		印旛沼北西岸	印旛沼東岸		印旛沼南岸	特徴
			(北部)	(南部)		
4世紀	前期末 ～中期初頭	●鶴塚古墳			○大鷲神社古墳	壺形・器台形
	中期					空白期
5世紀	中期末 ～後期初頭	●立田台遺跡 SM02	●上福田4号墳	○瓢塚32号墳	●角来野谷1号墳	円筒・形象の 樹立開始
	後期前半	●小林1号墳	●南羽鳥高野 1号墳 ●竜角寺101号墳 ●南羽鳥正福寺 1号墳	●船塚古墳 ★公津原埴輪窯 ●石塚古墳 ●天王塚古墳		形象埴輪の多様化
6世紀	後期後半	●道作1号墳 ●大木台2号墳 ●古井戸原2号墳	●竜角寺44号墳 ●竜角寺37号墳 ●竜角寺112号墳 ○浅間山古墳		●清水遺跡 SM08	下総型埴輪の 定型化
	終末期	□上宿古墳	□岩屋古墳	□天王船塚27号墳	□御山遺跡SX054	消滅
7世紀						

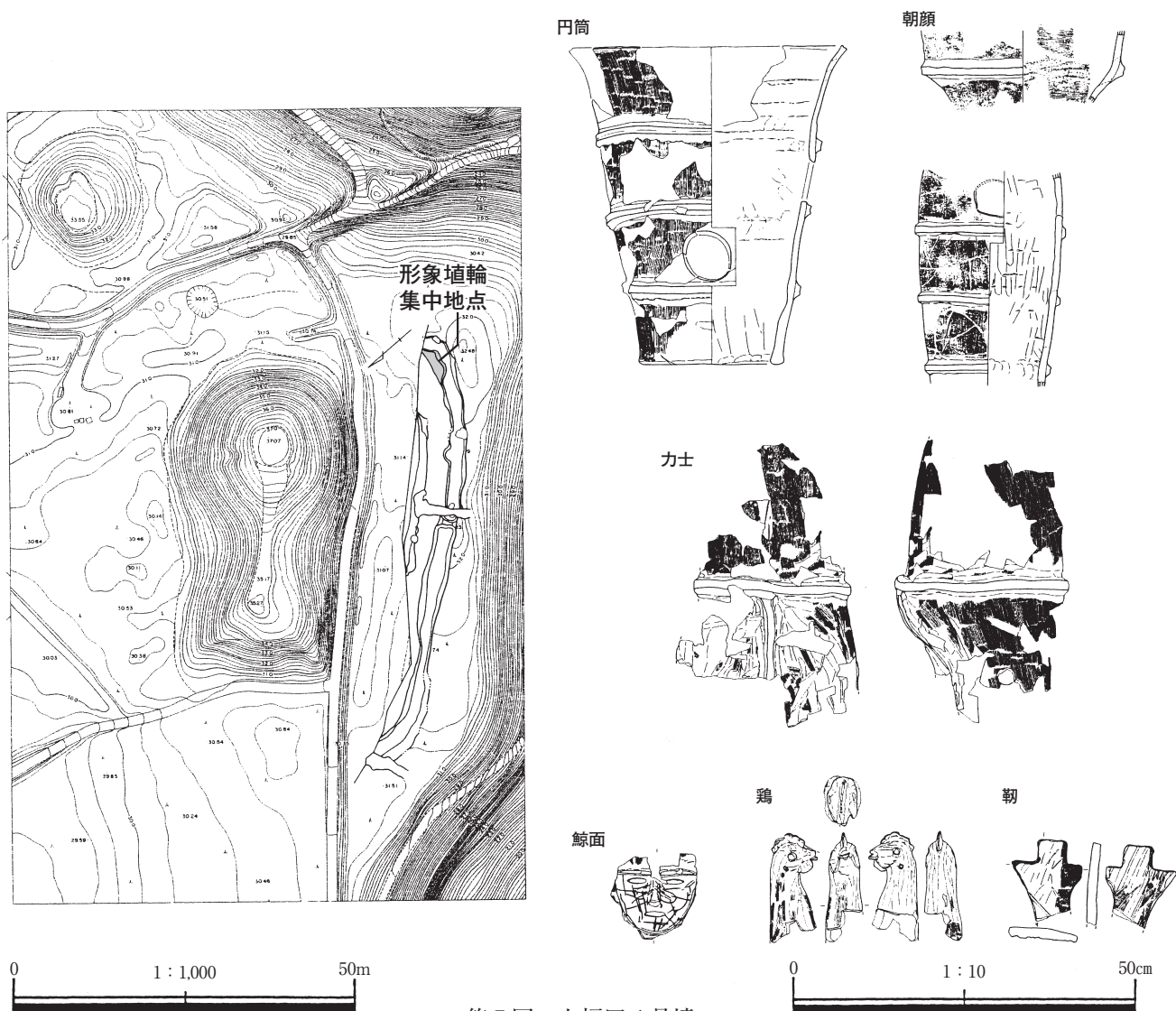
第2図 印旛地域の埴輪出土古墳(※白抜きは埴輪を伴わない古墳)



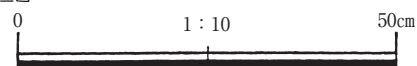
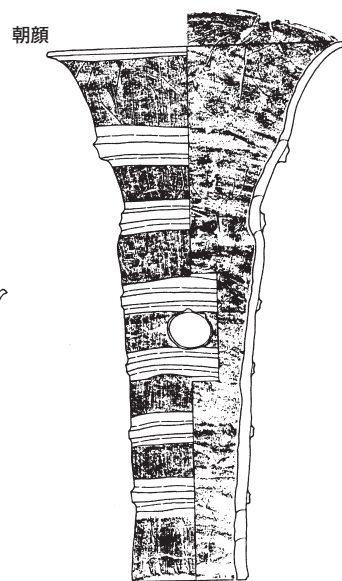
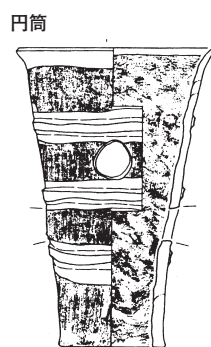
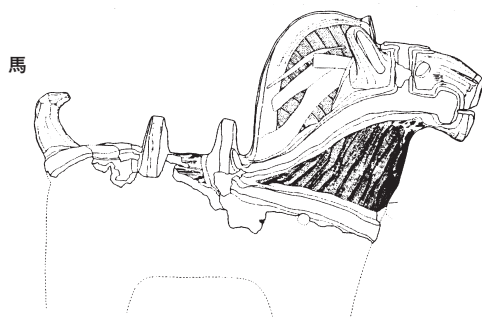
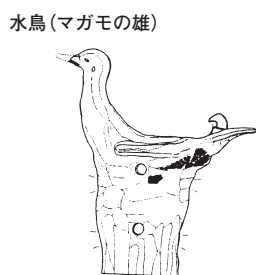
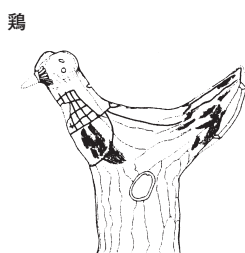
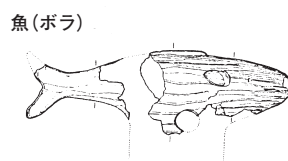
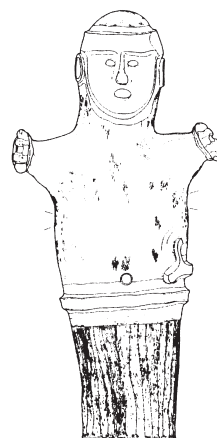
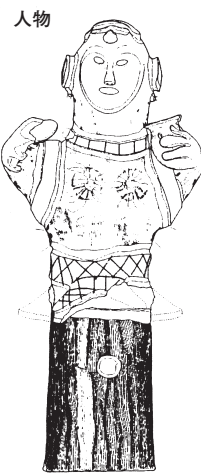
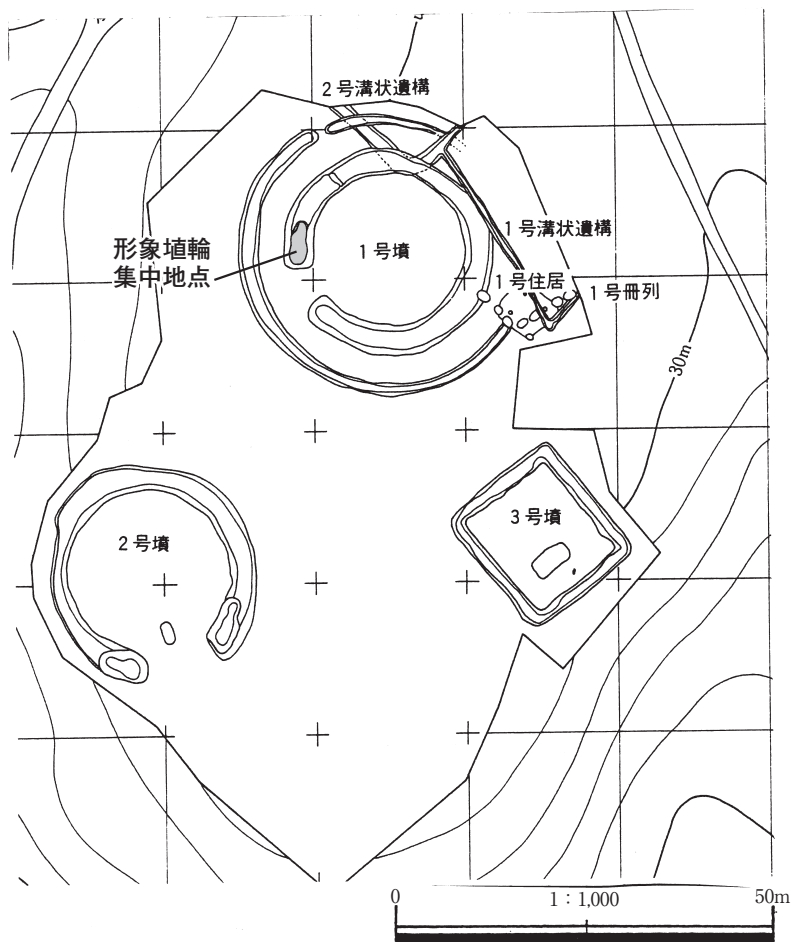
第3図 埴輪の種類と名称(『房総考古学ライブラリー3 古墳時代(1)』を一部改変)



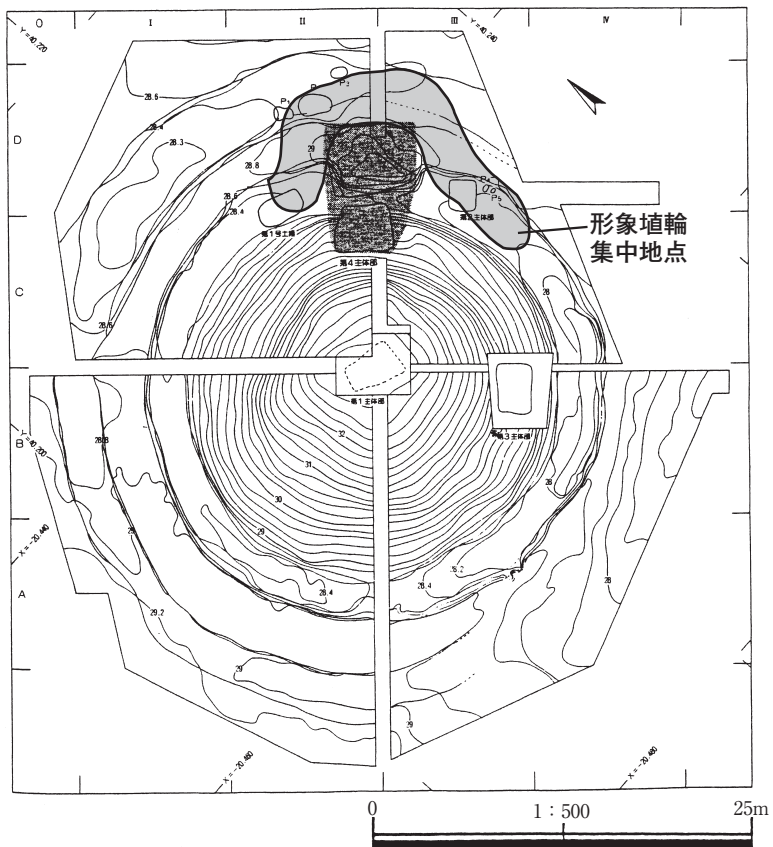
第4図 鶴塚古墳(古墳1/1000、遺物1/10)



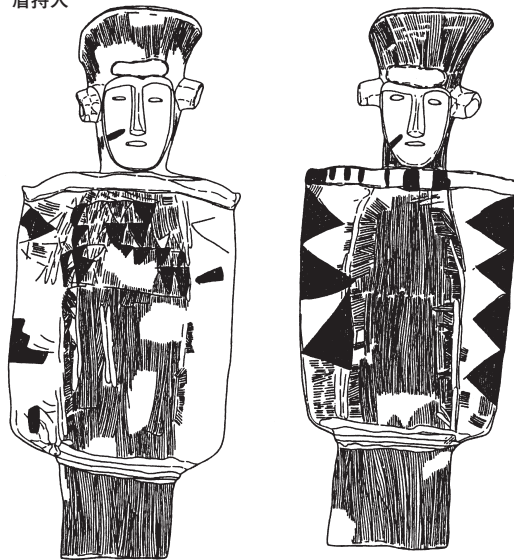
第5図 上福田4号墳
(古墳1/1000、埴輪1/10)



第6図 南羽鳥正福寺遺跡1号墳
(古墳1/1000、埴輪1/10)



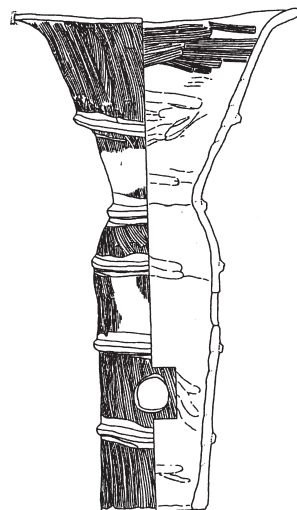
盾持人



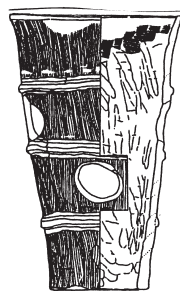
巫女



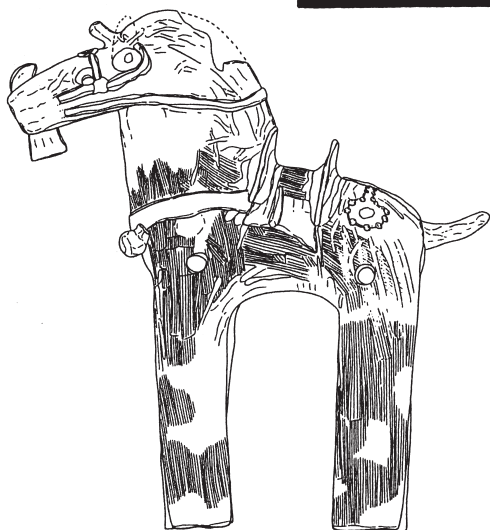
朝顔



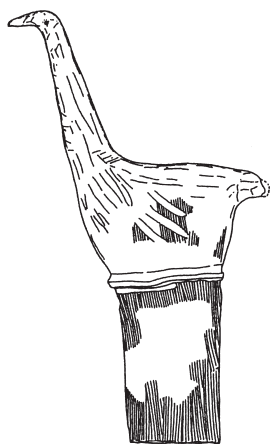
円筒



馬



水鳥



鹿



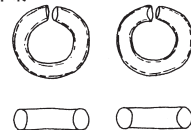
直刀



鏃



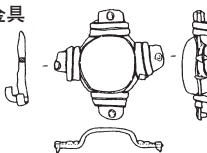
耳環



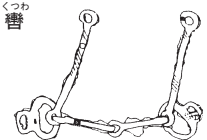
兵庫鎖



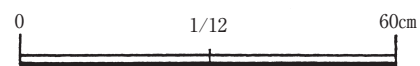
辻金具



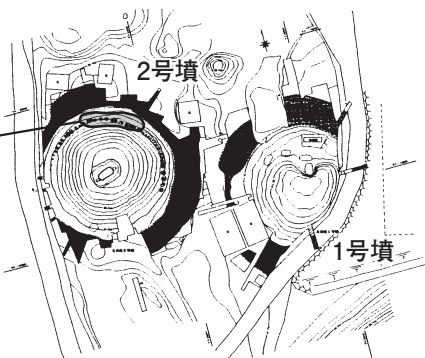
くつろ



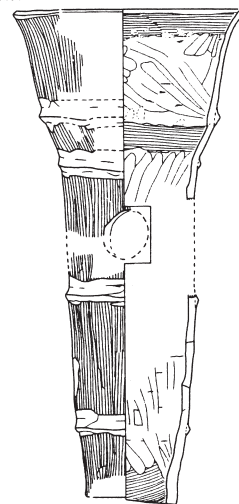
第7図 竜角寺101号墳
(古墳1/500、埴輪1/12、その他不同)



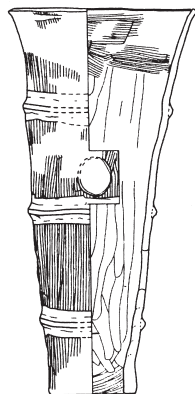
形象埴輪
集中地点



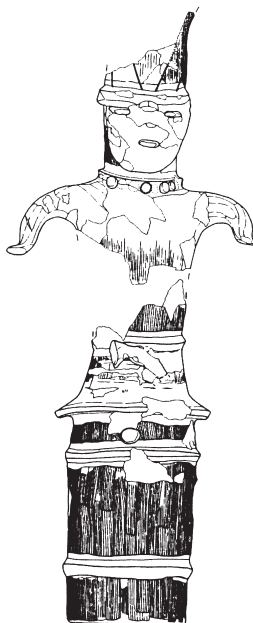
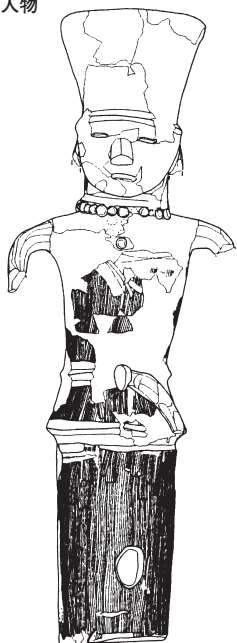
朝顔



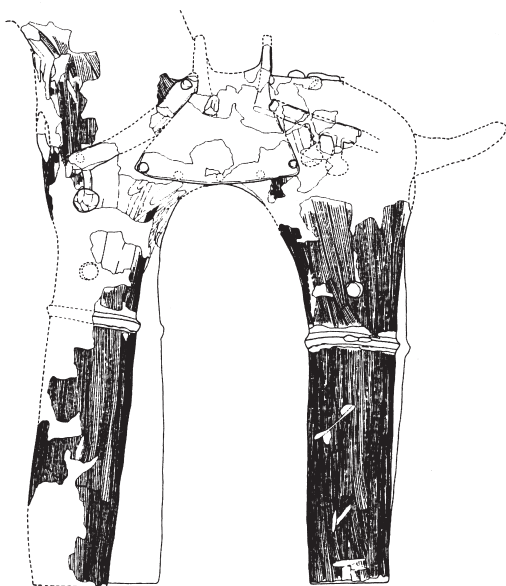
円筒



人物

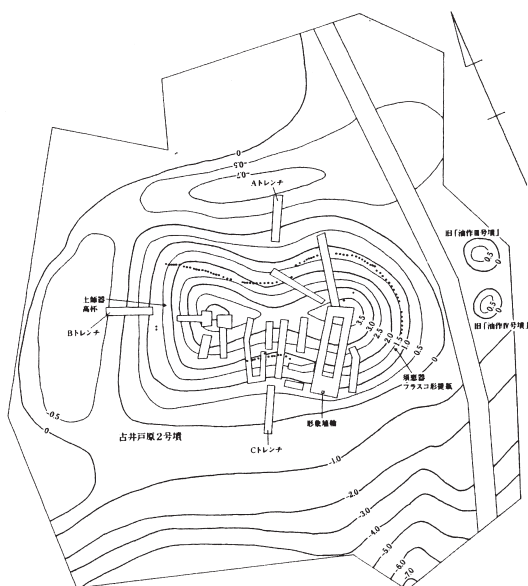
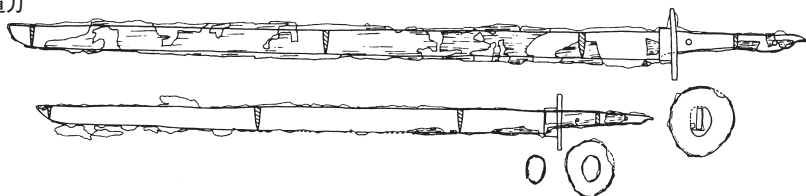


馬

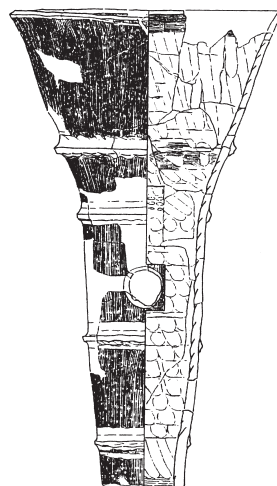


第8図 大木台2号墳
(古墳1/1000、埴輪1/10)

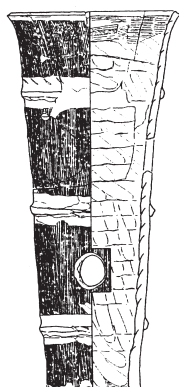
直刀



朝顔



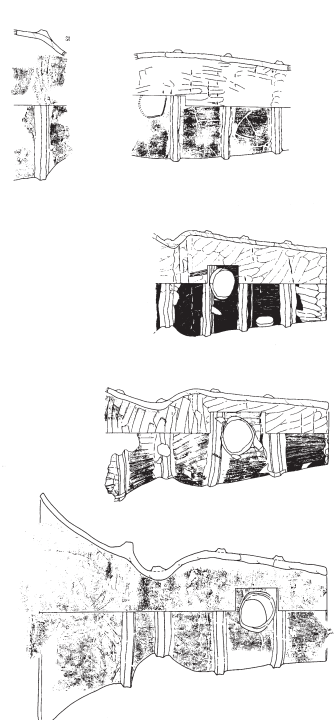
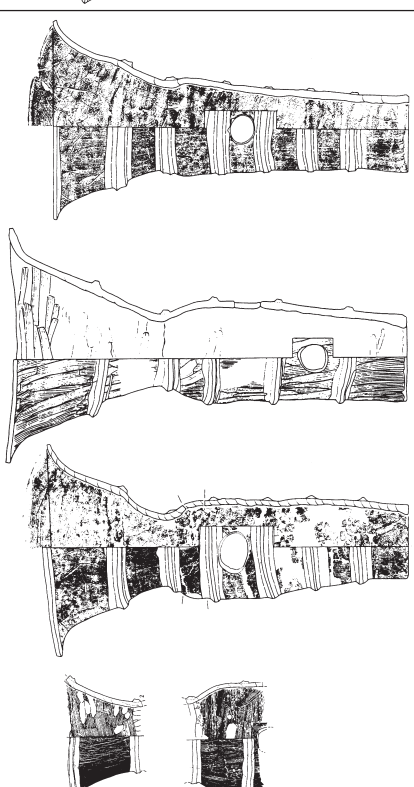
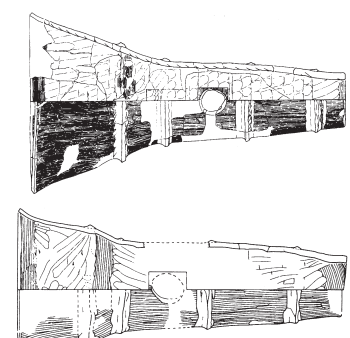
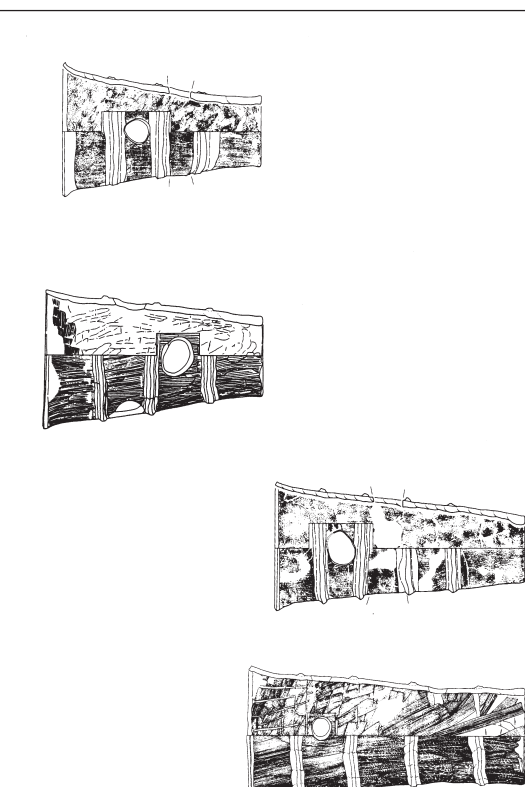
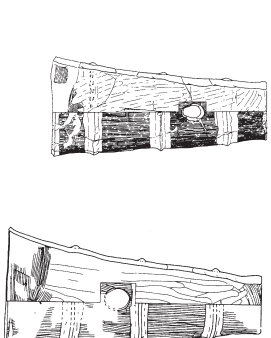
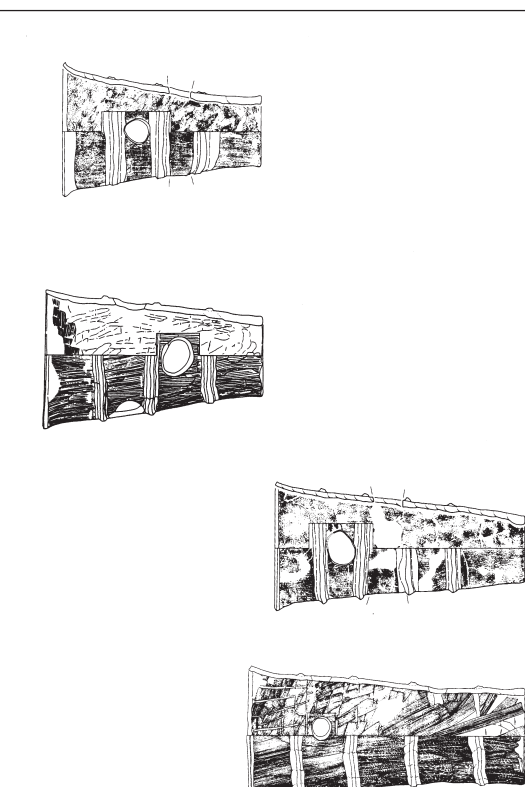
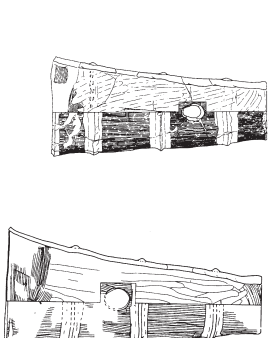
円筒

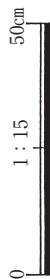


第9図 古井戸原2号墳
(古墳1/1000、埴輪1/10)

0 1 : 1,000 50m

0 1 : 10 50cm

下総型埴輪		下総型埴輪の直前段階		下総型埴輪						
中期末～後期初頭 (5世紀末～6世紀初頭)		後期前半 (6世紀前半)		後期後半 (6世紀後半)						
朝顔形										
	2条3段	3条4段								
	巴筒形									
立台第1遺跡 SM-02 (円墳)		角来野谷1号墳 (円墳)	瓢塚32号墳 (円墳)	上福田4号墳 (前方後円墳)	公津原埴輪窯跡 (生産遺跡)	南羽鳥高野遺跡1号墳 (前方後円墳)	竜角寺101号墳 (造出付円墳)	南羽鳥正福寺遺跡1号墳 (円墳)	大木台2号墳 (円墳)	古井戸原2号墳 (前方後円墳)



第10図 印旛郡域内における円筒埴輪の変遷 (S=1/15)